

## この年を迎えることができたのは、 同じ時を過ごしてきた人たちのおかげです。

成人式の舞台を作り上げる成人式実行委員会。  
そこで委員長を務める砂田滯奈さんに活動の様子と  
成人式への思いを聞きました。

「1月12日は成人の日。新たな志や夢を胸に歩んでいく年。少子高齢化の波は押し寄せるが、若いエネルギーの持つ力は変わらない。これからの廿日市を担う次世代の姿は、今、輝いている。」

いるそうです。当時の大人と認められた年齢は12〜16歳。昨今でも高齢化が進む中、選挙権の年齢の引き下げが議論されています。これからはより大人の自覚と責任を持った若者が必要とされ、まちづくりのエネルギーとなることが期待されています。

**20歳の私たち自らが、式典を考案しています**

「少子高齢化の進む中で、地域の私たち若い世代が、お互いに関わり合えるようになればと思っています」と話すのは、平成27年成人式実行委員長を務める砂田滯奈さん。廿日市市子ども会育成連絡協議会に所属し、地域の子どもの会のため役としても活躍されています。

廿日市の成人式は、実際に20歳を迎える人が主体となり、そこに地域の大人も加わって式典を行っています。成人式のイベント内容の決定や記念品の選定、恩師からのビデオメッセージの撮影などを行い、式典を取りまとめています。8月に初めて顔を合わせた実行委員会メンバー。その時の印象を「今まで関わることのなかった同年代人たちですが、みんなとてもしっかりしている人ばかりで、支えても話をさせてもらっています。」と話します。

今年には新たに取り組むことも増えています。新成人に向けて会場配布するしおりもその一つ。小学校や中学校の通学路など思い出の場所で撮影した写真で作ったモザイクアートが表紙を飾ります。「みんな積極的にアイデアを出して、自分たちのやりたいものがはつきりとしています。」

**感謝の気持ちを  
かみしめ当日を迎えたい**

子ども会の活動や地域でのボランティアに普段から活躍する砂田さん。「私の思う大人は、素直に感謝ができる人なんです」と切り出しました。

「私も子ども会で地域の方々にお世話になってきました。今はお世話をさせてもらう立場にもありますが、その時の感謝の気持ちをお忘れはいけないと思います」と語ります。

「20歳になった今、誰に一番感謝の気持ちを伝えたいかとか聞かれれば、もちろんそれは家族にですね。2人姉妹の砂田さん、2人の子どもを育てるのは、大変なことだったとこの年になって思います。」

「家族はけんかをして1つ



平成27年成人式実行委員長  
すなだ・れな  
**砂田 滯奈さん**  
(上平良)

**Profile**  
平良小学校、廿日市市子ども会育成連絡協議会の廿日市ジュニアリーダーズクラブに所属。現在専門学校に通いながら歯科衛生士を目指す。



成人式実行委員会の様子（12月11日）。前回実行委員会に所属していた人も加わり、活動を支えている。この日は成人式まで1月を切り、最後の大詰め会議。



11月9日に開催された生涯学習フェスティバルでは、実行委員会がブースを設け、過去に開催された成人式の様子などをパネル展示。また、観客を巻き込んでのダンスも披露した。



## ここが出発点

-stage of the 20th-

特集

廿日市で成人を迎える人は、  
1162人

国民の祝日に関する法律（祝日法、昭和23年7月20日法律第178号）によると「成人の日」とは、「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いあげます」と日とあります。今年廿日市で20歳を迎える成人の数は1162人。全国では約122万人が新成人となります。

日本の30歳未満の人口は、昭和50年以降一貫して減少。平成25年10月1日現在、30歳未満の人口は3551万人で総人口の27.9%となっています（平成26年版子ども・若者白書より）。廿日市でも全国と同様に若者の数は減少傾向にあります。廿日市、大野、宮島地域の合併後現在の5地域の姿になったのが平成17年。翌18年の20歳人口は1502人、市の総人口の1.26%でした。それから8年後の現在、20歳人口は1162人、市の総人口の0.99%と、1%を割り込りました。

成人式は冠婚葬祭のなかで冠にあたります。これは、江戸時代以前、男子の元服の儀で子どもの髪型から大人の髪に結び変え、冠をかぶることに由来して